

# ジャックと豆の木

大分大学教育学部附属幼稚園（文責／園長 石川照代）



## 災害時の引取について

いつ「南海トラフ地震」が起こるかかわからないと言われています。明日かもしれないし、1ヶ月後かもしれないし、夜寝ている間かもしれないし、子どもたちが園にきている日中かもしれない。いつ起こるかかわからないけれど確実に起こるとされています。

もし、幼稚園にいる時に災害が起こったら・・・。私たち職員は、全力で子どもたちを守る行動を取ります。そして、無事に切り切れたら、次は安全に保護者の元にお返しすることを考えます。「引取り」です。その時お願いしたいのは、4校園のルールに従って冷静に行動し、引取に来ることによって、二次的な災害に合わないようにすることです。

さて、今年度は11月6日（水）に4校園合同の「引取訓練」を行います。しかし、それまでの半年に災害が起こらない保証はありません。そこで今週の「ふれ合いデー」で、4校園の引取のルールと保育室での引取方などをお伝えします。各家庭でシミュレーションをし、冷静に行動するための心の準備をお願いします。



## こんなにも豊かな子どもの「遊びの世界」

年長さんの保育室には同じ大きさの立方体の積木がある。おそらくは300個ほど。そして、毎年目にするのが『ドミノ』倒し。「お、今年もやってるな!」としばし注目!

思い思いに始めたらしく3カ所でドミノを夢中で並べている子がいる①。並べた積木の列が近づいて来たとき、「つなげようよ!」とAくんはBくんに声をかけた。Bくんも受入れて②慎重につなげた3人。誰かが不用意に倒してしまっても、責めることなくまた1から立てていく。倒れてもまたやり直せばいいんだということがわかっていのだらう。寛容な空気に、感心することしきり。蛇のように曲がりくねった積木の列がこれまた面白い! 芸術のジャンルで言えば「インスタレーション」だろう。

もう一人、いつの間にかドミノ倒しから発展して橋の橋脚のような頑丈な構造物を作っていたCくん④。ふと気づくと自分だけ繋がっていない。「誰も繋いでくれない!」と急に涙ぐんで訴えた。「上のを取れば繋げられるよ!」とAくん。しかしイメージが違う。Cくんは諦めて「誰か手伝ってくれない?」と叫んだ。そこへ、様子を見守っていたDくんが手を挙げた。「僕が手伝うよ!」・・・子どもたちかの「遊びの世界」というのは、大人が思う以上に豊かで味わい深い。

## 「環境の構成」とは何なのか?

幼児教育は「環境を通して教育」と言われている。これは「環境」とは、自分が置かれた空間のことである。物理的・心理的・社会的環境、そして自然環境などがあり、これらは互いに影響を及ぼし合っている。保育室の環境を構成するのは、おもちゃ、机、椅子、床、壁、天井、光、音、匂いなどである。保育者が環境を構成する役割は、子どもたちが安心して遊ぶことができるようにすることである。保育者は、子どもたちの発達を促進するために、環境を適切に構成し、調整する必要がある。また、子どもたちが主体的に環境と関わり、自己表現ができるようにすることも大切である。

